



町の玄関口の再整備

～ 大洗駅前広場リニューアル ～

大洗町都市建設課 主任 飛田 義隆

はじめに

大洗町は古くから海水浴場をはじめとする観光と保養の町であり、神磯鳥居など多くの景勝地があります。また、漁業や水産加工業が盛んで、重要港湾となった大洗港（茨城港大洗港区）へのフェリー就航により北海道へのアクセス基盤として発展しています。

近年は町の玄関口である大洗駅と海の玄関口である大洗港をつなぐ（都）駅前海岸線を中心に駅と港との連携を強化し、コンパクトシティの推進に資する大洗駅周辺の拠点性向上、商業・観光拠点と連携した交流賑わい空間づくりに取り組んでいます。



①上空からみた大洗駅と大洗港

経緯

鹿島臨海鉄道大洗鹿島線の大洗駅は、昭和60年3月に開業を迎えてから30年以上が経過し、トイレや自転車駐輪場が老朽化してきたほか、一般の方の送迎車を駐車・停車するスペースが無い等の課題が多くありました。そのため、大洗駅前基本構想検討委員会を立ち上げ、導入施設の需要調査や再整備の基本方針、方向性の検討を行ってまいりました。

本町の玄関口としてふさわしい魅力的な街なみの実現を図るために、誰もが利用しやすく、誰からも愛される拠点の形成を目指し、大洗駅前広場リニューアル工事に着手することとなりました。



整備概要



②大洗駅前広場全体写真

○整備概要

所在地：大洗町桜道300

名称：大洗駅前広場

事業費：約500百万円

工期：平成30年8月～令和2年8月

完成：令和2年8月26日

主な事業

公衆トイレ改修、駐輪場改修、有料駐車場整備、歩道改修、シェルター設置



③公衆トイレ



④有料駐車場

広場全体のイメージとしては、電車を降りて駅前へ出ると「海を感じる」ことをコンセプトとし、海と空の「青」と、砂と雲の「白」を基調に色彩をまとめております。

夏の強い日差しや雨をよけるシェルターをバスやタクシーなどの車両の乗降場所だけでなく歩道を覆う形で配置するとともに、時間制の有料駐車場を整備し、駅を使う方が快適に利用できるような空間を目指して工事を進めてきました。



また、公衆トイレに関しては、男女トイレの他に多目的トイレを設置しあらゆる方が利用できるようユニバーサルデザインを適用しております。

■うみまちテラス

駅前広場改修と並行して、駅隣接地には大洗町観光情報交流センター「うみまちテラス」を建設しました。同施設は町や（一社）大洗観光協会が協働して設立した「大洗観光おもてなし推進協議会」によって運営されています。公募で決定された施設名称については、「海辺の街＝うみまち」「うみを待ち望む＝大洗観光への期待」が込められています。

本施設は、観光コンシェルジュが常駐する観光案内所のみならず、大洗の名産品・グッズの販売、町内での起業を目指す事業者に運営スペースを提供するチャレンジショップ機能、近隣圏と連携し1泊利用も可能なレンタサイクル事業の展開など、通常の観光案内所に加え様々な機能が集約されています。



⑤うみまちテラス外観



⑥見取図

○整備概要

所在地：大洗町桜道301

名称：大洗町観光情報交流センター
「うみまちテラス」

事業費：85百万円

工期：令和2年3月～令和2年8月

開館日：令和2年9月10日



⑦チャレンジショップ



⑧レンタサイクル

■今後の展開

観光を取り巻く環境が変化する中、テーマ性の強い体験型観光（＝ニューツーリズム）が求められる時代となりつつあります。今回の駅の玄関口の再整備は、このような目的に資する賑わい空間の創出に寄与するのみならず、今後の市街地整備における中心的な役割を果たす事業となりました。観光と日常とが相互に交流し、その展開がよりよいまちづくりにつながることを期待しつつ、筆をおかせていただきます。